

### 第3回部会議事 委員意見・質問に対する区の回答

#### 全世代向け地域包括ケア体制構築に向けた相談・連携体制について(議事1)

No	意見の要旨	区の回答	意見・質問者
1	資料1-3 (2) 地域包括ケアシステムにおいて、小・中学校関係者からの情報も加えられるとより良いと思います。	子ども(児童・生徒)に関する課題については、小・中学校関係者との連携も不可欠なものであると考えているため、今後の検討の中で連携のあり方を整理してまいります。	岩川 委員
2	高齢者人口、高齢化率の急速な増加、上昇を考えると、現在の8ヶ所では足りず各区民活動センター毎に1ヶ所ずつ地域包括支援センターを設置するのがベターと思われる。同時に区民活動センターに「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等の資源を集中させ、権限の強化を図る必要がある。 いろいろと組織、しくみ、制度をつくっても、それが実際に利用されなければほとんど意味をもたない。アウトリーチチームの強化といかに区民に周知するか、広報の工夫が求められる。 すこやか福祉センターの役割がいまひとつはっきりしない。地域包括支援センターとの業務のすみ分けが出来ていない。現在、区民活動センターの管理、統括、指令塔的な役割を担っていると思うが、地域事情、ニーズはそれぞれの地域で異なっており、4ヶ所のすこやか福祉センターで一元管理することは困難と考える。 アウトリーチチームについていえば、メンバーは各区民活動センターに1人、すこやか福祉センターに3人、中野区全体で27名と人数が圧倒的に少ない。これでは地域ニーズにほとんど応えられない。地域住民やボランティアの中からメンバーを選出するなどして、大幅な増強が必要である。	区民の様々な相談・課題は、まず区民活動センター単位で集約される形にしていきたいと考えています。 そのための第一歩として、現在、区民活動センターの職員2名と、すこやか福祉センターの福祉職、保健師3名で、各地区5名体制、計72名(一部兼務有)のアウトリーチチームが配置されています。 アウトリーチチームの活動の広報についてはさらに工夫を重ね、区民の方がまず相談を寄せやすい地域の窓口としての周知を進めてまいります。また、すこやか福祉センター、地域包括支援センター、その他関係機関、地域住民の皆様との連携と協力関係を強化して、区民活動センター単位での機能、対応能力の向上を図っていきたく考えています。	中山 委員